

## 思い出と反省



文学部国文学科教授（創設時：文学部長） 栗原 敦

十周年おめでとうございます。

当時の学長飯塚幸子先生を補佐して、新しい学部の創設準備にあたってから、はや十数年がたちました。参画したその頃の先生方もほとんどがご退職になりました。

女性の社会進出を見据えて、社会系学部を構想し、一学部一学科での出発となりましたが、早期に二学科展開をと期待していたのです。

皆様のご努力によって順調な発展が得られましたが、発足前の片隅にいたものとして反省もあります。それは、小さな規模の我々の大学として、既存の学部、組織とのスムーズな融合のためにもっと工夫が出来なかったものかということ。既存の学部からの構成員などがもう少し多く、もう少し長く創立時に協同メンバーであったら、お迎えした先生方にご苦勞をおかけする度合いが、今回よりももっと少なくて済んだかも知れないなあ、ということ。これからも、大学のさらなる発展を目指す、若い先生方に参考にさせていただけたらうれしく思います。

自由で、対等な、生き生きとした構成員の発言が、責任ある大学人たちの、実り多い場所を作っていってくださるように！ 心よりお祈りいたします。